

解答例

適性検査Ⅰ

1 100点

〔問題1〕 20点

自分の思いを言葉にすることで、自分の経験に意味をあたえ、整理することができるから。 (41字)

〔問題2〕 30点

読書をして、わすれていた体験や経験が思いうかんだことがきっかけで、連想によっていろいろなことが引き出され、いろいろな時期の自分にふれることができること。 (76字)

〔問題3〕 50点

(省略)

適性検査Ⅱ

1 40点

〔問題1〕 20点

(1)	4.06 cm		
(2)	〔直角三角形〕 20 個	〔正三角形〕 10 個	〔円〕 7 個
	〔説明〕 1本のモールは、直角三角形を6個、正三角形を3個作るように切る。 1本のモールは、直角三角形を6個、正三角形を2個、円を1個作るように切る。 1本のモールは、直角三角形を6個、正三角形を1個、円を2個作るように切る。 1本のモールは、直角三角形を2個、正三角形を4個、円を4個作るように切る。		

〔問題2〕 20点

(1)	イ
(2)	2, 3, 4

2 40点

〔問題1〕 20点

〔サケのルイベ〕

サケのルイベに「雪にうめて、こおらせる」というほぞん方法が用いられているのは、小たる市の冬の平均気温が0度以下だから。

〔マアジのひもの〕

マアジのひものに「日光に当ててほす」というほぞん方法が用いられているのは、小田原市の冬のこう水量が夏に比べて少なく、日光に当てることができたから。

〔ブリのかぶらずし〕

ブリのかぶらずしに「あまぎけにつけて、はっこうをうながす」というほぞん方法が用いられているのは、金沢市の冬はこう水量が多く、空気がしめっており、はっこうが進む気温だから。

〔問題2〕 20点

(選んだ二つを○で囲みなさい。)

米・小麦・そば

米がとれる地いきと小麦がとれる地いきの年平均気温と年間こう水量をそれぞれ比べると、米がとれる地いきの年平均気温は高く、年間こう水量は多いが、小麦がとれる地いきの年平均気温は低く、年間こう水量は少ない。

3 30点

〔問題1〕 14点

(1) 〔選んだもの〕 ウ

〔理由〕 実験1から、色がついているよごれを最もよく落とすのは、アとウであることが分かる。そして、実験2から、アとウを比べると、ウの方がより多くでんぶんのつぶを減少させることが分かるから。

(2) 5分後のつぶの数をもとにした、減少したつぶの数のわり合は、水だけの場合よりも液体ウの場合の方が大きいから。

〔問題2〕 16点

(1) せんぎいの量を28てきより多くしても、かんそうさせた後のふきんの重さは減少しないので、落とすことができる油の量は増加していないと分かるから。

(2) 〔サラダ油が見えなくなるもの〕 A B C D

〔洗剤〕 4 滴